

たしかな未来を創るために

雄武町長 高橋 健仁

新年 明けましておめでとございませう。町民の皆さまにおかれましては、健やかに新春を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。また、日頃から町政に対しご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、本町では夏の気温が平年以上に高くなるなど、全国的にも記録的な猛暑が続き、人々の生活だけではなく、農業・水産業など、地域産業にも影響を及ぼしました。また、急激な大雨や線状降水帯の発生など、気象の極端化が一層顕著となつてきており、大規模災害への備えが急務であることを痛感しております。

昨年を表す漢字の上位は、『熊』『米』『高』が挙げられましたが、『米』や『高』が示すとおり、食料品の高騰やエネルギー価格の高止まりなど、家計への負担が私たちの暮らしに大きな影響を与えておりますが、物価高対策につきましては、町も12月議会定例会において国の交付金を一部活用した支援事業の大型補正予算を措置しましたので、水道料金の基本料金の減免、家計応援券やおこめ券の配付などの生活者支援のほか、事業者に対する支援も早急に取り組み、町民の皆さまが安心して暮らし続けられるよう努めてまいります。

政治の分野では、参議院議員通常選挙における与党の惨敗により、石破内閣が総辞職し、女性初の高市内閣総理大臣が誕生しました。また、自民党と公明党との連立政権が解消され、自民党と日本維新の会との連立政権が発足するなど、日本の政治情勢は目まぐるしく変化しております。

そのほか、雄武町では、交通事故死ゼロ日数3000日の達成、卓球や陸上競技、吹奏楽や民謡など、児童生徒が全道や全国大会に出場するなどの明るいニュースがありました。

さて、昨年の雄武町の産業の状況ですが、酪農・畜産業においては、乳価の引き上げや牛の個体販売価格の上昇により、農業経営に明るい兆しが見えてきている反面、猛暑の影響による乳量の低下や円安による資材高騰など、先行きが不透明な状況が続いておりますが、令和5年度に続き、昨年、新規就農者を迎えたことは大変喜ばしく、牛乳生産量の維持や農地の有効利用の観点から、新規就農者を含めた担い手対策には、引き続き地域を挙げて力を入れていく必要があるとともに、農地の大区画化やスマート農業などの取組みも積極的に進めていきたいと考えております。

漁業では、主要魚種の一つである毛ガニが計画量の75トン未満に水揚げしましたが、一方で、資源量への懸念は依然として残っており、オホーツク管内栽培漁業推進協議会毛ガニ部会が進めている種苗生産の研究に対し、将来的な安定生産につながる期待が寄せられております。また、ホタテやサケについては、資源量の問題から計画量を下回る水揚げにとどまりましたが、漁業全体の総漁獲高は、計画金額を大きく上回る結果となりました。

水産加工業では、主要原料であるホタテ貝柱の歩留まりの低下と価格高騰という厳しい状況にあり、加工品の販路と市場価格に大きな影響を及ぼし続けております。ま

た、経営面においては、燃油価格高騰の影響などによる生産コストの高騰や、今後始まる育成就労制度に向けた環境整備などの課題はありますが、経営の安定化が図られることを願っております。

私は、町長に就任してから任期4年間の折り返しの3年目を迎えております。この間、地域医療の関係では、国保病院の常勤医師3名体制を確保し、町民の命や健康を守る誓として医療の充実を図ってきたほか、コミュニティバスの運行や町内路線バスの運賃無料化を実現し、持続可能な地域公共交通の維持など、一定の成果を挙げてきたものと思っております。

また、最重要課題である人口減少問題については、社会減を抑制するとともに、交流人口や関係人口増加への取組みが必要であると考えており、本年におきまして町の基盤である第一次産業の充実にしっかりと取り組んだうえで、移住定住対策の充実や地域おこし協力隊の活用のほか、医療、教育、子ども、高齢者に関連した効果的な施策を積極的に進め、私が掲げる『確かな未来を創る！』ためのまちづくりを力強く進めてまいりますので、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和 8年の新しい年が明けました。皆さまにおかれましては、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、町議会に対して深いご理解とあたたかいご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年7月20日に第27回参院選が投票開票され、野党の国民民主党と参政党は議席を伸ばした一方、石破政権下の自民党と公明党の与党が大敗し、参議院の過半数を割り込みました。その後9月、石破茂首相が自民党総裁を辞職し、10月4日高市早苗自民党総裁が選出され、公明党の連立離脱後、日本維新の会と連立した自民党が無所属議員らの賛同を得て、10月21日の首相指名選挙で高市早苗氏が選出され、日本初の女性の内閣総理大臣が誕生しました。

高市総理は、10月28日に来日したアメリカのトランプ大統領との首脳会談を大成功で外交デビューを果たし、その後すぐに、積極財政と財政規律の両立を掲げ、経済財政諮問会議でも「経済成長を通じて税収を増やし、財政の持続可能性を実現する」と表明し、12月の補正予算では責任ある積極財政、物価高対策や成長投資、防衛力強化を重視しています。

令和7年度補正予算の一般会計総額は18.3兆円となり、これは高市政権の政策を国民に表明する大型の補正でした。

雄武町も、高橋町長から早速12月議会に国の予算による『重点支援地方交付金』を含む補正予算が提出され、議会として

も、約1.1億円を超える生活者支援および事業者支援事業を全会一致で可決しています。

昨年の我が町の状況は、漁業の漁獲金額が対前年比約3億円減少の約61億円でした。昨年は春のニシンが大漁と順調な毛ガニ漁と期待の持てる海明けでしたが、これまで安定していたホタテ漁が予定量に届かず、最終的な漁獲量は対前年比約7千トン減の1万4千トン、金額は約3億円減の33億円。鮭定置漁は対前年比37トン減の約800トンでしたが、金額は1.6億円増の約8.4億円。昆布は、価格共に大幅に増加して漁を終えています。海水温の上昇と前年に続くホタテ稚貝の不漁、ホタテ成貝の小型化が気掛かりです。

農業は、牛乳生産量は約2.1%減の2万5千200トンで、牛乳生産額がほぼ前年並みの約32億円（補給金含む）でした。

『国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区』農地整備事業は、今年で9年目を迎えます。この事業の効果により良質な牧草やデントコーンをサイレージなどに飼料化して、乳量増産をしている受益者の方も出ています。

また、栽培面積が日本一を誇る『韃靼そば』を栽培する農業法人もこの事業の受益者で、最近では小麦の栽培も開始しました。この事業により、耕作放棄地問題の解消と同時に自給飼料増産を主とした酪農経営のコスト削減、さらに韃靼そば

や小麦など、ほかの穀物生産拡大による我が町の農業の多方面の飛躍に期待しています。

また、漁業の安全操業の重要な根幹である漁港の整備も、元稲府・雄武・沢木漁港がそれぞれ予算化されています。特に雄武漁港は、今年度より10年間をかけて総額49億円で工事の新規着工が決定しており、静穏度向上と安全で利用しやすい漁港建設を目的に整備が開始されます。

雄武町議会としては、雄武町の未来を担う若い世代が自慢できる我が町を目指し、町の経済の活性化、地域の産業を支えるための施策とともに、子育て支援や教育環境の充実、高齢者福祉の向上など、皆さまが安心して暮らせる環境づくりに力を入れてまいります。町民一人ひとりが地域の一員として、お互いに支え合い協力し合うことで、雄武町の未来が変わります。

私は、大切なふるさと雄武町のため、道内外の先進地から学ばべき事は学び、より魅力的な町になるよう、故郷への限りない愛情を持って本年も努力する所存です。

本年の町民の皆さまのご健勝と弥栄ならびに雄武町の発展を心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

雄武町長と雄武町議会議長が語る

年年の誓ひ

潜在力を活かして魅力的な雄武町へ

雄武町議会議長 橋詰 啓史

